

中国における CSR の最新動向

——中国社会科学院 2013CSR ブルーブック及び SYNTAO 報告書を基に

2014年2月15日

報告：金丹

はじめに

- ・最近の中国の CSR の状況
- ・中国における日本企業に対する評価
- ・中国における CSR 報告書の発表状況
- ・今後の傾向

一 中国社会科学院企業の社会的責任研究センター2013年ブルーブック『中国 CSR 研究報告 2013』

○2013年11月中国社会科学院は『企業の社会的責任ブルーブック 2013』及び「責任クラウド」オンライン・ツールを発表した。ブルーブックの発表は5年目で、国有企業上位100社、民営企業上位100社、外資系企業上位100社のCSR発展指数を発表した。¹

○結果として、中国のCSR発展指数は26.4ポイントで、全体的に依然スタート段階にあると評価した。9社は卓越者、33社がリーダー、過半数の167社が傍観者²という結果に。

卓越者—国家電力網、中国南方電力網、シノペック、中国華電、チャイナ・モバイル、華潤、中国建築材料、COSCO、中国華能

○国有企業、民営企業、外資系企業別に見ると、全体的に国有企業のポイントが高く、他のグループとの差が更に開いている。トップ10の企業はすべて国有中央企業となっている。

○外資系企業上位100社のCSR発展指数については2012年13.2ポイントから18.6ポイントになり、民営企業上位100社を超えたものの、全体的に依然傍観者の段階に留まっている。リーダーは3社、66社は傍観段階に留まっている。地域的に韓国企業が最も高く

¹ 国有企業、民営企業上位100社は中国企業連合会、中国企業家協会発表の「2013年中国企業TOP500」を基に売上高、企業性質、資本構成、企業規模などを考慮し選定。外資系企業は2013 Fortune Global 500を基に、売上高、中国での営業実績、影響力、ブランド認知度などを考慮し選定。

² 卓越者 80ポイント以上、リーダー 60-80ポイント、追走者 40-60ポイント、ピギナー20-40ポイント、傍観者 0-20ポイント。

40.3ポイントで、次が台湾企業 38.0。日本企業は 25.5、スウェーデン 24.7 などとなっている。

○上場企業の CSR 発展指数評価では、平均点が 30.4 ポイントでまだビギナー段階にある。

○業界別の分析では、電力業界がトップで 60.4 となっており、次の銀行業の 45.7 を大きく上回っている。

○前年度との比較では、外資系企業の発展が顕著で、初めて民営企業を超えた。

2013年 国有企業 43.9 民営企業 16.6 外資系企業 18.6

2012年 40.9 15.2 13.2

○5年間の評価として、全体的に指数は大幅アップしている。国有企業の優勢は維持されているのと、地方国有企業の発展が顕著になっている。外資系企業の指数は最初の段階で低かったが、次第に部分的企業が中国における CSR マネージメントシステムを強化し、社会・環境情報の開示を拡大することによって、2013年には民営企業を超えることができた。

○中国の日本企業の状況ーオンライン・ツール「責任クラウド」www.zerenyun.com の検索を基に作成

順位 ³	会社名 (中国語)	会社名 (日本語)	指数
59(5)	松下电器(中国)有限公司	パナソニック (中国)	51.32
60(6)	富士施乐 (中国) 有限公司	富士ゼロックス (中国)	51.14
73(9)	索尼 (中国) 有限公司	ソニー (中国)	46.66
75(10)	佳能 (中国) 有限公司	キヤノン (中国)	46.48
83(12)	东芝集团 (中国)	東芝 (中国)	42.23
91(15)	夏普 (中国) 投资有限公司	シャープ (中国)	35.21
95(17)	丰田汽车 (中国) 投资有限公司	トヨタ自動車 (中国)	34.33
99(18)	日立 (中国) 有限公司	日立 (中国)	33.4
126	小松 (中国) 投资有限公司	コマツ (中国)	22.11
136	本田中国投资有限公司	本田 (中国)	18.94
151	日产 (中国) 投资有限公司	日産 (中国)	16.22
164	住友商事(中国)有限公司	住友商事 (中国)	13.47
166	理光中国	リコー (中国)	13.34
173	普利司通 (中国)	ブリヂストン (中国)	12.63

³ 全 300 社での順位。 () 内は外資系上位 20 社での順位。

205	富士胶片（中国）投资有限公司	富士フイルム（中国）	9.71
222	三菱商事中国有限公司	三菱商事（中国）	7.56
269	三井物産（中国）有限公司	三井物産（中国）	3.28
289	鈴木(中国)投资有限公司	スズキ（中国）	1

二 最近中国における CSR 報告書の発表状況－SYNTAO『価値発見の旅 2012－2013 報告書』

◎報告書発表の傾向と構成

○報告書の数量が激増している。2012年中国では1705本のCSR関連報告書（企業1496本、企業以外209本）が発表されているが、前年に比べて70%の増加している。2013年は8月まで1026本発表されている。⁴

○報告書の内容が増加している。平均ページ数は28ページで2011年の20ページより増加している。一方10ページ以下の報告書が急激に増加しているが、新規発表者が多いためと見られる。特に企業以外の組織の報告はほとんど2ページ程度となっている。同時に100ページ以上の報告書は前年の1.7倍となっている。

○国有企業の報告書が全体の55%を占めていると同時に、企業以外の組織の報告書が12%にアップしている。

○地域別に見ると、上位は上海288本、北京253本、広東152本、江蘇140本となっている。

○上場企業の報告書の数は依然増加しているが、全体で占める比率は2010年の81.2%から2012年の38.5%に下がっている。上場企業以外の発表が激増している。

○上場企業の定量指標開示率は徐々に上がってはいるが、全体的にまだ低く、2012年12.9%となっている。石油、天然ガス、電力、石炭などの開示率が高い。同時に定量指標は随意性が強く、基準が統一されていないため、比較が難しい。多数の報告書では実質的問題を回避し、定量指標をあげない。

◎環境の変化

○CSRに対する政府の推進と監督が強化されている。2012年末まで、国務院国有資産監督管理委員会の要求の下、すべての中央企業（現在113社）がCSR報告書を発表した。その他の企業は強制的ではないが、地方政府の政策推進により、多くの企業がCSR報告書を発表するようになった。

⁴ SYNTAOのCSR報告書公開プラットフォーム <http://www.sustainabilityreport.cn/>

○国際及び国内の各種ガイドラインの発表は企業のCSRの推進とCSR情報開示内容の充実を促進する役割を果たした。

○民間団体が企業の情報開示及び社会的責任の履行においてますます重要な役割を果たしている。

三 今後の傾向ー中国新聞週刊・SYNTAO『2014CSRトレンド研究報告』

①トップからの働きがけの強化。中国共産党18回3中全会では企業の役割の転換を要求し、単なる経済利益の追求から社会、環境に対する認識を明確にし、社会管理、生態文明建設に協力することを求めている。

②中心部から地方へ。中心都市以外の地方政府も政策的に企業の社会的責任を推進する。

③影響力の拡大。消費者意識の向上によりますます多くの消費者が企業のCSRパフォーマンスを商品選択の基準の一つとしている。これにより企業も競争力につながるブランド価値のある社会的責任活動を重視するようになる。

④専門の強化。多くの企業が専門部署を設けCSRを推進する。

⑤コンプライアンスの重視。CSRの基礎としてのコンプライアンスが再び認識される。

⑥量から質へ：CSR報告書の量と質がともに向上する。

⑦公益に対する企業の関心。非公募型基金会の設立条件が緩和されて、企業基金や専門基金の数が増加している。

⑧CSR3.0の時代：企業は社会的価値を創造する新たな方法を模索している。

⑨CSR担当者の変化：CSR担当職に対する認識が変化しつつあり、また経済発達地域を中心にCSRマネージャーを中心に自主的な交流「生態圏」が出現している。

⑩グリーンと金融のウィン・ウィン関係：グリーン・ファイナンスが金融業界のCSRを主導するようになる。